



Title	井戸さんを偲ぶ思い
Author(s)	有馬, 和代
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 6-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100718
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

II. 追悼文リレー

井戸さんを偲ぶ思い

有馬和代

元大阪市保健所保健師
太成学院大学看護学部准教授

私は、未だに井戸さんがお亡くなりになられていることが、信じられない自分があります。

とても淋しい気持ちと同時に、世の中で、とても大切な人を社会から失わしてしまったのではないかと虚しさを感じています。

私からは、ご家族の皆さんや私自身の心の中にできた大きな穴と虚無感を埋めるために、大阪市の結核対策において、井戸さんとの思い出の場面や逸話について語らせていただきます。

やはり、井戸さんとご一緒させて頂いて、一番印象に残っているのは、「あいりんの訪問型 DOTS」での事です。ヘルスサポート大阪に大阪市があいりん DOTS 事業の一部を委託したことから、深く関わりを持つ機会を頂きました。

何しろ、井戸さんは、「人を大切にする人」という言葉がピッタリだと思いました。あいりん DOTS のおっちゃんが、タバコの火で問題を起こし、警察に保護された時、警察に出向き、身元引受人となり、DOTS のおっちゃんが早く警察から出られるように手続きをした。ということを会議の報告で受けました。その会議の中で井戸さんの人柄を思わせる言葉は、「〇〇さんはなあ、何回も中断したが、今回は薬をちゃんと飲んで結核を治すんや！」と私に力強く語ってくれた人や。きっと最後まで薬を飲んでくれる。信じてる。タバコの火の問題はしっかり注意したけど、こんな事で内服中断させたくない。」と語った言葉が印象的で、井戸さんは、単に結核の治療ということではなく、色々な問題を抱えたDOTS のおっちゃんのニーズに耳を傾け、本人が結核を克服し、人生の意味を見出し、どう生きたいのかを決める、生き方の回復を、DOTS を通して導いているのではないかと感じたことを覚えてています。

そして、その後、この DOTS のおっちゃんが治療終了した時、大阪社会医療センターの前で出会いました。その時のおっちゃんの第一声が、「あの、井なんとかという人、本当にエ一人や。今も居るんか？わし、色々お世話になった。火出したことで、警察から助け出してくれただけでなく、その後の住むところまで世話してくれたんや。あんなにやさしい人おらん！また逢いたい！」という言葉でした。井戸さんは、結核を治すだけでなく、人間不信になっているおっちゃん達の心に“人のやしさ”を感じさせることができる人とも思いました。

印象的な白い歯で、顔をくしゃくしゃにして笑う顔は、今もなお、みんなの心の中で生きている井戸さんの姿です。

井戸さんが私に「有馬さん、結核の根絶を目指して！結核にならない！結核を広めない！結核になつても安心して治療ができる環境を、患者さんを中心にして、みんなが繋がり造ることが大切や！」

という合言葉のような言葉をある講演の企画の時に語って下さいました。

この合言葉が私の結核対策に対する保健師魂に火をつけてくださったと認識しております。

井戸さん、見てください。これからの大坂を！これからの日本を！きっと、結核は根絶されいく！そして、その姿を！



(写真撮影：有馬和代)

「結核の根絶を目指す仲間たち」という講演をする時に撮った写真です。(2007年頃)



(写真撮影：有馬和代)

CRシステム搭載車の機能を一般の人たちに知ってもらうために井戸さんがモデルになって撮影した写真です。

(2009年頃)